

令和 5 年度
舞台芸術等総合支援事業
(劇場・音楽堂等機能強化総合支援)

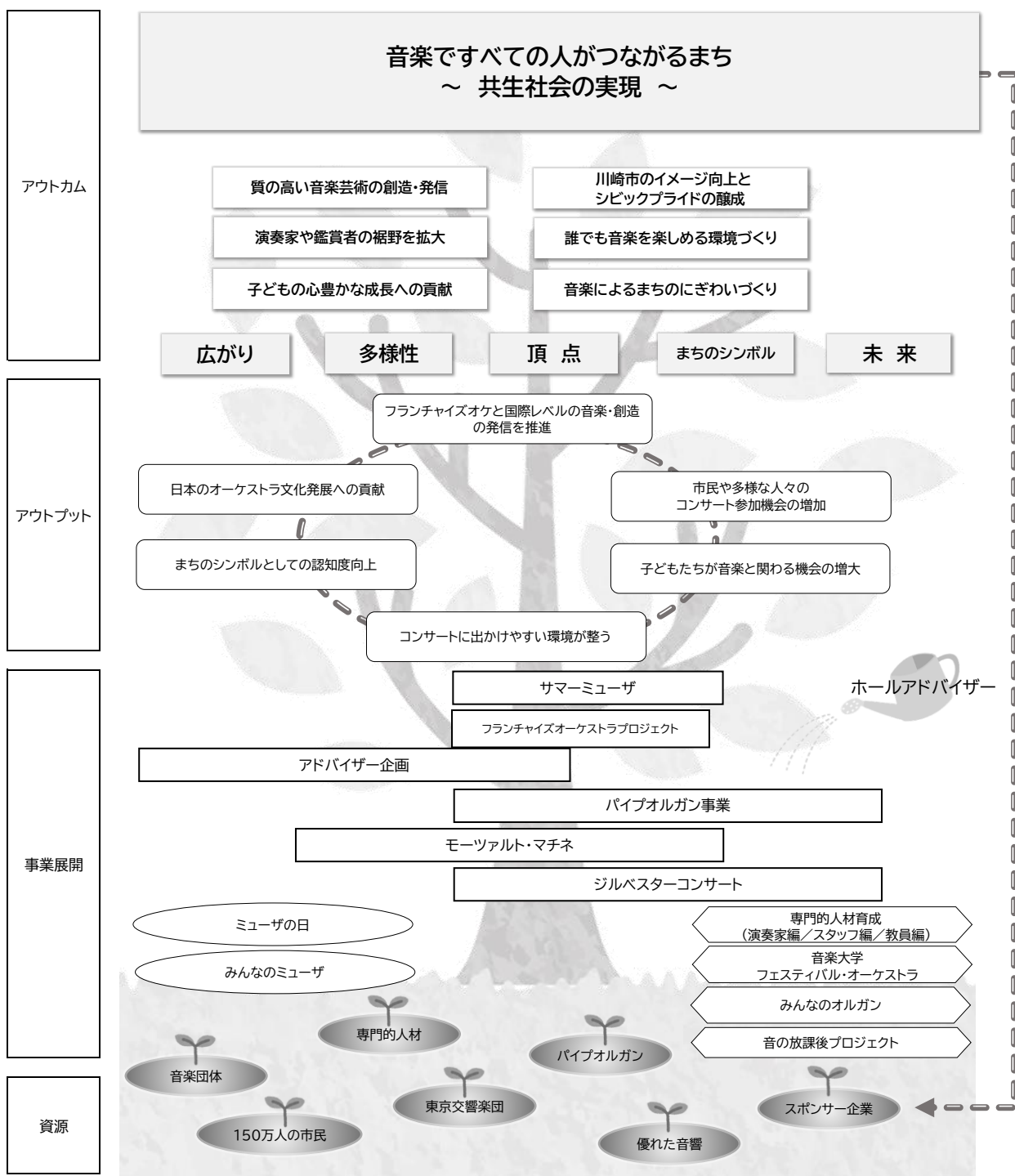
自己点検報告書

団 体 名	公益財団法人川崎市文化財団	
施 設 名	川崎シンフォニーホール（ミューザ川崎シンフォニーホール）	
助 成 対 象 活 動 名	音楽ですべての人がつながるまち ～共生社会の実現～	
助 成 期 間	5	(年間)
内 定 額	47,447	(千円)

1. 事業概要

(1) 事業計画の概要

全体図（概念図）



(2) 令和5年度実施事業一覧

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数(人)	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	フェスタ サマーミュージア KAWASAKI 2023	令和5年7月22日～ 8月11日	【出演】東京交響楽団、NHK 交響楽 団、山形交響楽団、日本センチュリ ー交響楽団、宮本貴奈 他	目標値	16,900
		ミュージア川崎シンフォ ニーホール		実績値	20,780
2	フランチャイズオーケス トラ・プロジェクト R. シュトラウス「エレクト ラ」	令和5年5月12日	【出演】指揮：ジョナサン・ノット、 東京交響楽団、演出監修：サー・ト ーマス・アレク 他	目標値	1,200
		ミュージア川崎シンフォ ニーホール		実績値	1,514
3	ホールアドバイザー企画 (①秋山和慶企画 ②松 居直美企画 ③小川典子 企画)	①令和5年4月8日 ②令和6年2月17日 ③令和6年2月23日	【出演】①指揮：秋山和慶 ②オルガン：松居直美 ③ピアノ：小川典子 他	目標値	833 (3公演平均)
		ミュージア川崎シンフォ ニーホール		実績値	①1938 ②639 ③476
4	パイプオルガン事業	①令和5年8月5日 ②令和5年9月18日 ③令和5年12月23日	【出演】パイプオルガン：大塚直哉、 イヴ・レヒシュタイナー、三原麻里 他	目標値	1,995 (3公演合計)
		ミュージア川崎シンフォ ニーホール		実績値	①888 ②644 ③1353
5	モーツァルト・マチネ	令和5年5月27日 他 全4公演	【出演】指揮：梅田俊明、ユベール・ スターン、ポール・メイエ、鈴木秀 美、東京交響楽団 他	目標値	3,064 (4公演合計)
		ミュージア川崎シンフォ ニーホール		実績値	①976 ②948 ③1,149 ④953
6	MUZA ジルベスターコンサ ート2023	令和5年12月31日	【出演】指揮：秋山和慶、トランペ ット：児玉隼人、ピアノ：小沢咲希、 ヴァイオリン：中野りな、東京交響 楽団	目標値	1,300
		ミュージア川崎シンフォ ニーホール		実績値	1,614
7	専門的人材育成事業(①ス タッフ ②演奏家 ③教職 員)	①令和5年7月25日 ～11月26日の期間中 で最大10日間 ②令和5年7月25日、 8月7日 ③令和5年8月9日	①【講師】ミュージア川崎シンフォニ ーホール各スタッフ ②【出演】洗足学園音楽大学、昭和 音楽大学 ③【講師】マイケル・スペンサー	目標値	1,640 (対象事業 合計)
		ミュージア川崎シンフォ ニーホール 他		実績値	①6 ②1,614 (2公演合計) ③30

8	音楽大学フェスティバル・オーケストラ	令和6年3月31日	【出演】指揮：シルヴァン・カンブルラン、音楽大学フェスティバル・オーケストラ、音楽大学フェスティバル・コーラス	目標値	1,400 (入場者数)
		ミューザ川崎シンフォニーホール		実績値	参加者 265 (入場者数 1,344)
9	ジュニア・プロデューサー	令和5年4月～10月	【参加者】川崎市内小学校在学の小学4年生から6年生の9名	目標値	参加者9 入場者数 100
		ミューザ川崎シンフォニーホール 他		実績値	参加者9 入場者数 110
10	みんなのオルガン (①オルガンツアー ②わたしもぼくもオルガニスト)	令和5年8月～12月	【講師】大木麻理	目標値	145
		ミューザ川崎シンフォニーホール 他		実績値	①10 ②19
11	みんなのミューザ (こどもフェスタ／アウトリーチ)	①令和5年5月5日 ②令和5年8月5日 ③令和5年4月11日 他 全6回 ④令和5年7月29日、8月5日 ⑤10月23日 他 全3回	【出演】大木麻理、小川典子、東京交響楽団、神奈川フィルハーモニー管弦楽団 他	目標値	4,600
		ミューザ川崎シンフォニーホール 他		実績値	①747 ②895 ③471 ④1349 ⑤740
12	ミューザの日 2023	令和5年7月1日	【出演】指揮：秋山和慶、東京交響楽団 他	目標値	10,000 (内公演 1,500)
		ミューザ川崎シンフォニーホール 他		実績値	13,568 (内公演 1,395)
13	創発プログラム	令和5年5月27日 他 全4回	【講師】高木綾子、山村雄大、ポール・メイエ、飯田有抄	目標値	30
		ミューザ川崎シンフォニーホール		実績値	30

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

2. 自己評価

(1) 妥当性

自己評価
事業計画に必要な構成要素が有機的に連関し、当初の予定通りに事業が進められているか。 ミュージア川崎シンフォニーホールでは【音楽ですべての人がつながるまち ～共生社会の実現～】（最終アウトカム）を目指し5つの大きな柱：「頂点」「広がり」「まちのシンボル」「未来」「多様性」を念頭に事業計画を実施。同時に、質の高い音楽芸術の創造・発信、音楽文化の裾野の拡大、市民や企業・団体との地域連携、次代を担う人材育成と教育普及を通して「音楽のまち・かわさき」のシンボルとしての役割を果たしている。 初年度にあたる令和5年度では、次の2点を理由に当初の計画通りに事業を実施できたと考えられ、アウトカムの発現に向けて着実に実績やノウハウを積み重ねている。 ① ミュージアを取り巻くあらゆる要素が円滑に連動・・・各要素の連関概要は下図の通り ② 設定された目標に対しての達成度・・・「有効性」にて詳述 加えて、5年度途中で新型コロナウイルス感染症の規制がほぼなくなったことで、生の演奏への期待感が高まり多くのお客様がホールに戻られた。規制緩和の一方で、コロナ禍に得られた知見や効果的だった手法（コンサートの配信、安心安全なお客様対応など）は、内容を整理して一部継続した。 音楽ですべての人がつながるまち ～共生社会の実現～
助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。 文化的意義 フェスタ サマーミュージア KAWASAKI（事業番号 1/以下カッコ内の数字は事業番号）や、東京交響楽団と共同制作したフランチャイズオーケストラ・プロジェクト「エレクトラ」（2）の実施でトップレベルの音楽を創造・発信した。また、多彩な人材育成（7, 8, 9, 10）、特色あるコミュニティプログラムやアウトリーチ公演（11, 12）などで多様な人々へ音楽を提供したり、人と人のつながりを生み出した。 社会的意義 ミューザの日（12）、こどもフェスタ（11）では様々な企画を実施してホールが地域の文化・交流拠点として機能した。特にミューザの日では、まちのにぎわいの創出にも大きく貢献した。 経済的意義 フェスタ サマーミュージア KAWASAKI（1）、ミューザの日（12）で来場する観客に近隣施設・店舗にも足を運んでもらう仕組みを設計し、まちのにぎわいに貢献。協働した企業・団体は 2 公演をあわせると 140 を超えた。

(2) 有効性

自己評価

目標を達成し、アウトカムの発現は可能か。

令和5年度の目標達成状況は以下の通り。ほぼすべての項目で目標を達成することができた。

【目標1 フランチャイズオーケストラと国際レベルの音楽・創造の発信を推進】

指標② 来場者アンケートにて再来場意向の「また来たい」の割合 90%以上

↳達成度 ◎ 該当する公演事業（1/以下カッコ内の数字は事業番号）の平均 97%

【目標2 日本のオーケストラ文化発展への貢献】

指標③ 来場者アンケートにて公演鑑賞頻度の「はじめて」の割合を 45%を目指す

↳達成度 △ 該当する公演事業（1, 5, 6, 7, 8）での平均 34.3%

指標⑤ 事業番号1において、地方オケ1団体以上を招聘

↳達成度 ◎ 2団体を招聘

【目標3 市民や多様な人々のコンサート参加機会の増加】

指標③ 来場者アンケートにて公演鑑賞頻度の「はじめて」の割合を 45%を目指す

↳達成度 ◎ 該当する事業（3, 4, 9, 10, 11, 12）での平均 52.6%

【目標4 まちのシンボルとしての認知度向上】

指標①イメージ調査にて『音楽のまち・かわさきのイメージ推進に役立っている』の割合 75%を目指す

↳達成度 ◎ 該当する公演での平均 89%

【目標5 子どもたちが音楽と関わる機会の増加】

指標③ 来場者アンケートにて公演鑑賞頻度の「はじめて」の割合 45%を目指す — 達成度 ◎ 該当する人材養成・普及啓発事業（7, 9, 10, 11, 12）での平均 60.7%

指標② 来場者アンケートにて再来場意向の「また来たい」の割合 75%以上 — 達成度 ◎ 該当する公演での平均 87.5%

【目標6 コンサートに出かけやすい環境を整える】

指標⑥ 事業番号11（ポップリコンサート）にて、毎年3校以上訪問

↳達成度 ◎ （3校訪問＝川崎市立中央支援学校 稲田分教室、神奈川県立麻生養護学校、川崎市立中央支援学校 桜校）

指標⑦ 鑑賞サポートを実施する公演を1事業以上実施

↳達成度 ◎ （1公演＝事業番号12で実施）

5年間を通して生み出されるアウトプットを積み上げ、広げていくことでアウトカムの発現が見込まれる。それに向けて令和5年度は着実に成果を積み上げることができた。次年度以降も継続してアウトプットしていくために、引き続き冷静な判断と柔軟な対応で事業に取り組んでいくことが重要だと考えている。

アンケートより

・安くていろいろなジャンルや楽団が聴けるのがいい(サマミューザ)
・気軽に一流の演奏が聴ける(モーツァルト・マネ)
・若い才能あふれるフレッシュな演奏に感動(ジューズ・スター)

「ジュニア・プロデューサー」アンケートより

・ちがう学校の友だちができた(参加者)
・ずっと企画してきたものを形にしてやり遂げることができて楽しかった(参加者)
・今回の活動を通して、自己表現ができて明るくなった(参加者の親)

(3) 効率性

自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んでいるか。

■事業期間について

今年度実施したすべての事業について、ほぼ当初の予定通りに実施できた。次年度以降も事業内容を検証しながら、アウトカムの発現を実現する適切な事業期間を設定していきたい。

■バリアフリー、多言語対応

点字プログラム作成のため点訳料を計上していたが、実際には視覚障害者からの申し込みがなかった。点字プログラムのニーズの確認と、当事者への周知方法の見直し、さらに点字プログラム以外の鑑賞サポートの検討が必要と考えられる。

アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んでいるか。

■事業費について

全体として、事業費の要望比は 90.8% となり大きな乖離はなかったため、ほぼ予定通り執行できたと考えられる。

以下、事業区分毎の状況等。

【公演事業】

■事業番号 2：フランチャイズオーケストラ・プロジェクト R. シュトラウス「エレクトラ」

以下の理由から、12,184 千円が余剰した。

- ・令和 5 年度の事業ではあるが、公演日が 5 月のため、広告宣伝費については令和 4 年度執行が多かった。そのため、当該年度の支出は少なかった。
- ・招聘ソリストの出演料、国際渡航費と宿泊費が別公演との按分によって当初の見込みより大幅に圧縮された。また、燃料費の高騰を見越して予算を多く取ったが、実際にはあまり上がらなかった。
- ・合唱団の人数が当初の見込みより少なくなった。

【人材育成、普及啓発】

助成対象経費が 1 千万円以下の事業ではあるが、以下の通り要望比が 80% 未満の事業も発生した。

事業番号 9：ジュニア・プロデューサー = 45.5%

事業番号 10：みんなのオルガン（①オルガンツアー ②わたしもぼくもオルガニスト） = 63.9%

事業番号 13：創発プログラム = 44.4%

それぞれ予算を多く取っていたが、外部に委託せず内製したり、広告は自社媒体を活用するなどして支出が圧縮された。要望書の段階であいまいな項目を減らすように努めたい。

(4) 創造性

自己評価

事業計画の内容が、独創性、新規性、先導性に優れている（と認められる）か。

■劇場・音楽堂等の資源（キーパーソン）

ホールアドバイザー：ホールの特性を熟知したホールアドバイザーの秋山和慶（指揮者）、松居直美（オルガニスト）、小川典子（ピアニスト）そして本年度（令和5年度）から着任した宮本貴奈（ピアニスト／ヴォーカリスト／作編曲家）らが独自に企画・出演する公演が好評を博している。公演以外にもホールアドバイザー4名・市長・ホールスタッフとの会議が年2回開催され、各専門における提言（楽器のメンテナンスなど）や企画への助言などにより、事業への独創性、新規性、先導性が生まれている。

- ・ホールアドバイザー秋山和慶企画「オーケストラで楽しむ映画音楽 XV」（事業3/以下カッコ内の数字は事業番号）
- ・ホールアドバイザー松居直美企画「言葉は音楽、音楽は言葉 Vol.5 J.S. バッハ「音楽の捧げもの」」（3）
- ・ホールアドバイザー小川典子企画「孤独と情熱」（3）
- ・宮本貴奈ホールアドバイザー就任記念スペシャル！「フェスタ サマーミュージア KAWASAKI 2023 サマーナイト・ジャズ」（1）

■劇場・音楽堂等の資源（専属集団）

東京交響楽団：川崎市のフランチャイズである同オーケストラと音楽監督ジョナサン・ノットのもとトップレベルの演奏を展開している。内容・評価共に高い「名曲全集（年10回）」（※対象外事業）「モーツァルト・マチネ（年4回）」は勿論の事、演奏会形式「フランチャイズオーケストラ・プロジェクト R. シュトラウス「エレクトラ」」では最小限の演出で音楽の魅力を最大限に引き出す事に成功し「質の高い音楽芸術の創造発信」を実現した。その結果、「音楽の友」誌、令和6年2月号「コンサート・ベストテン2023」にて海外オーケストラ公演を押さえ第1位に輝いた。

■先導性に関わる公演事業

- ・フェスタ サマーミュージア KAWASAKI 2023（1）：川崎市のフランチャイズオーケストラである東京交響楽団をはじめ、首都圏のプロオーケストラがミュージアに結集して日替わりで出演して熱演を競うなど「新しい都市型音楽祭」。ホールのフラッグシップ事業として今回で19回目の開催となり、近年では首都圏以外からも楽団を招き、全国的に認知度の高い事業となっている。
- ・ミュージアの日2023（12）：ミュージア川崎シンフォニーホールの呼びかけを契機に近隣施設や企業等が連携するなど、音楽が地域を結びつけるハブ機能を果たし「音楽によるまちづくり」の象徴となり、全国的にも類を見ない取り組みに他都市やホールからの視察も多い先導性の高い事業となっている。

■独創性に関わる公演事業

- ・松居直美企画「言葉は音楽、音楽は言葉 Vol.5 J.S. バッハ「音楽の捧げもの」」（3）：フランスのマイムユニットを招聘し、「聴く音楽」だけではなく「見る音楽」としても楽しんでいただく取り組みを行い、新しい世界を観客に届けることができた。
- ・市民合唱祭・市民交響楽祭・市民吹奏楽祭（※対象外事業）：音楽を愛する市民の「晴れの舞台」として市民が主体となり一つの公演を手作りで創造していく重要な公演。出演した市民3,000人以上と、観客約10,000人がミュージアのファン（応援者）に育っている。

自己評価

事業の実施によって、当該劇場・音楽堂等の国内外での評価の向上につながっている（と認められる）か。

■人材育成

- ・専門的人材育成事業（7-②）：優れた実力をもつ若手演奏家の育成。演奏技術・演奏家としてのレベル向上、ひいては日本全体の音楽家のレベルの底上げに寄与する事ができた。
- ・音楽大学フェスティバル・オーケストラ（8）：ミューザ川崎シンフォニーホールと東京芸術劇場と首都圏の音楽大学が協力し若手音楽家の育成、音楽大学間の連携を目的にしている。演奏者だけでなく、舞台スタッフや楽譜係（ライブラリアン）、運営側にも学生を起用することにより、次代の音楽界を担う人材の育成を行う事ができた。
- ・ジュニア・プロデューサー企画（9）：公募により集まった小学4年生から6年生がコンサートを作り上げる。一般的な仕事体験にとどまらず自ら考え、異なる意見をまとめていきながら形を作っていく中で参加者は大きな自信を得る事ができた。過去の経験者たちは、その後も「リトルミューザ」として、ホールとのつながりを継続させている。

■普及啓発

- ・ミューザの日 2023（12）：川崎市の市制記念日でもあり、ミューザ川崎シンフォニーホールの開館記念日に家族連れでも楽しめるお祭り「ミューザの日」を開催。公演来場者だけでなく広く地域と関わり人々に愛される文化施設として認知されるように継続・拡大する事ができた。
- ・創発プログラム（13）：中高生を対象に様々なものを体験し、影響し合いながら「創発」してもらおう新規企画。一流のアーティストを毎回ゲストに招き多様なプログラムを実施し、新しい発見と創造性を見つけていく事ができた。
- ・対話型鑑賞プログラム（※対象外事業）：学校の夏期講習の一環として行った企画。公演を聴く前に内容を他の参加者と対話することで思考力やコミュニケーション力を高め、実際の公演においてより豊かな鑑賞体験を提供する事ができた。

■助成対象外事業

- 世界的指揮者サー・サイモン・ラトルが「世界最高の音響」と絶賛したホールで世界トップレベルのオーケストラ公演を開催し、国内の芸術水準の向上かつ多方面への牽引力と影響力を残している。
- ・ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団：新芸術監督キリル・ペトレンコと初来日となり、「音楽の友」誌2月号「コンサート・ベストテン 2023」にて第2位に輝いた。
- ・内田光子 with マーラー・チェンバー・オーケストラ（MCO）：巨匠ピアニスト内田光子が弾き振りでモーツァルトのピアノ協奏曲を2曲と共に、演奏機会の少ない「シェーンベルク：室内交響曲第1番」を披露し、高いレベルでの演奏を提供する事ができた。
- ・ロイヤル・コンサートヘボウ管弦楽団：子ども向け公開リハーサルを4年ぶりに実施。指揮者・オーケストラの協力のもと公開リハーサルだけでなく、リハーサル後に楽団員と子どもたちの交流する時間を設け、次代を担う子どもたちへの実りの多い時間を持つ事ができた。
- ・第10回被災地復興支援チャリティ・コンサート：毎年3月11日に、震災の記憶を風化させないように被災された方々に思いを寄せ継続しているコンサート。4人のホールアドバイザーが集結し岩手・宮城・福島県出身の子どもたちによる「東北ユースオーケストラ」と共演し、東北の子どもたちと首都圏の観客を、震災をテーマに結びつけた。

(5) 持続性

自己評価

事業計画を通じて組織活動が持続的に発展する（と認められる）か。

■充実した主催・共催事業の実施（事業運営）

5つの柱をふまえた多彩な事業の継続的な実施、事業アンケートによるご意見の検証、事業への反映により、更なるファン確保につながった。

【主催・共催入場者率】83%（前年度比：7%増）

【主催・共催公演における満足度】97%（前年度と同じ）

■ミューザファン（＝顧客・リピーター）の確保（経営戦略）（ネットワーク構築）

友の会会員やホールスポンサー、貸館（施設）利用者確保により、安定した収入確保につながった。

【友の会会員】5,031人（前年度比：469人増） 【Web会員】60,009人（前年度比：6,998人増）

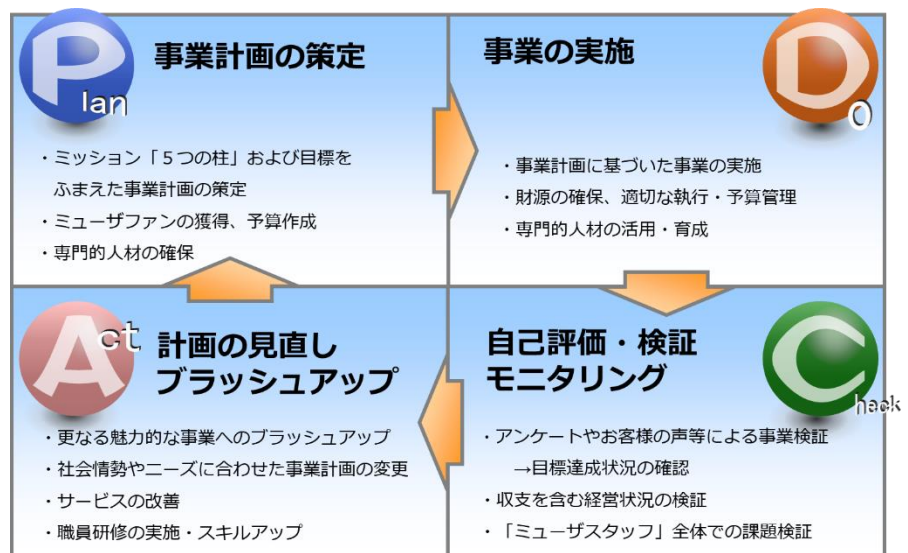
【ホールスポンサー収入】13,600千円（前年度比：410千円増）

【施設利用料収入】155,740千円（前年度比：7,218千円増）

■雇用環境の整備（人事戦略）

退職金制度導入の検討を含む
長期的・継続的な雇用環境づくり
や、様々な職員研修の実施による
職員のスキルアップへの取り組み
により、有能な人材の継続的な
確保や新たな獲得につながった。

上記の様々な要因により、組織活
動の安定化・持続的発展が認めら
れる。



持続的なアウトカムの発現・定着が期待できるか。

「魅力的な事業展開によるチケット収入の確保」「安全かつ安定した施設管理・運営による施設利用料収入の確保」「外部資金調達の資金源となるホールスポンサーの拡大及び民間企業からの協賛金確保」「主催事業実施に伴う助成金の確保」等、様々な面からのアプローチにより、健全な収支バランスを保つように努めていく。

そして、効率的な事業執行等で生じた利益は、普及啓発や人材育成など新たな事業の実施や利用者サービスに還元することにより、公共ホールとしての役割を果たし、更なるホールの発展へと好循環を生み出していく。

そのことにより、「音楽のまち・かわさき」の拡大や更なる市民参加に繋がり、地域への愛着や誇り（シビックプライド）が醸成され、最終的には川崎市が目指す「成長と成熟の調和による持続可能な最幸のまち・かわさき（かわさき10年戦略）」内「みんなの心がつながるまち」において、ミューザ川崎シンフォニーホールの取り組みが「音楽ですべての人がつながるまち ～共生社会の実現～」となり、市民の幸せに繋がり、さらに首都圏・全国へと広がっていくものと期待する。